



今日から着手できる！ 物流現場改善 メソッド

働き方改革とホワイト物流の推進による物流現場改善は、大きなテーマです。そのためには、現場力の向上やITの導入に力を入れていく必要があります。ただし、ヤミコモに多額の投資を行っても大きな成果は得られません。ここでは物流業務改革に向け、知恵と工夫およびITで物流現場の課題を改善していった事例について紹介します。

知恵と工夫による事例

ヒヤリハット情報の共有

課題

ヒヤリハット情報が共有されず、各個人の経験に依存していた。ベテランの知識が言語化されないため新人への伝達も不十分となり、組織としての学習が進まずに、同様のミスや危険な事象が繰り返されていた。

対策

朝礼において、前日のヒヤリハットや事故情報を短時間で共有するルールを導入。誰でも発言しやすい雰囲気を作り、状況や原因、注意点を簡潔に伝える運用を仕組み化した。

効果

- ・個人の経験が組織全体に蓄積されることで、新人を含めた全員の危険予測力が養われた。
- ・同種のヒヤリハットが減少し、職場全体の安全意識が向上して事故防止体制が強化された。

〈改善前〉

危険情報が
個人の経験にとどまる



同じミスを繰り返す
可能性も…

〈改善後〉

毎日の共有で
危険予測力が向上



個人の経験が
会社の財産に！

ITを活用する事例

不在・配送完了報告のデジタル化

課題

都度停車して行う電話での配送・不在報告は、ドライバーの時間を圧迫していた。事務所側もリアルタイムな状況把握が難しく、顧客対応の遅れが課題になっている。

対策

ワンタップで事務所と顧客に報告・自動通知できる専用アプリを導入。スマホ操作に不慣れなドライバーでも使いやすい仕様とし、アプリ操作も必ず安全な場所に停車して行うルールを徹底した。

効果

- ・停車後の報告にかかる時間が大幅に短縮され、ドライバーの負担を軽減。
- ・状況をリアルタイムで確認可能となり、顧客からの問い合わせや再配達の手配が迅速化。

〈改善前〉

電話での報告が
大きな負担に



安全に対するリスクも…

〈改善後〉

アプリ報告で安全性と
効率性が向上



問い合わせ対応も迅速化！

鈴木 邦成 (すずき くにのり)

物流エコノミスト、日本大学特任教授、博士(工学)(日本大学)、早稲田大学大学院修士課程修了、日本ロジスティクスシステム学会理事、日本SCM協会専務理事。専門は物流・ロジスティクス工学。主な著書に『物流DXネットワーク』(NTT出版)、『入門 物流(食庫)作業の標準化』(日刊工業新聞社)。